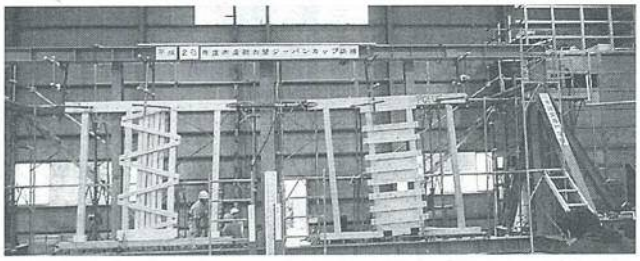
トーナメント優勝はkiba勝timbers

第19回木造耐力壁ジャパンカップ



決勝戦ではポラス暮し科学研究所の土台が割裂して、kiba勝timbersが優勝

総合優勝は四国職能大

NPO木の建築フォラム・木造耐力壁ジャパンカップ実行委員会は17～19日、第19回木造耐力壁ジャパンカップを静岡県富士宮市の日本建築専門学校で開いた。19日にはトーナメントでkiba勝timbers（東京木場製材協同組合＋東日本パワーファスニング＋東京大学木質材料研究室）の「HAMEX」が決勝戦でポラス暮し科学研究所の「軌条（きじょう）」を破り初優勝。総合優勝は四国職業能力開発大学校の「壁　SANUKI」が受賞した。

この大会は木造の耐震性能などを実際の水平加力試験（競技）を通じて学び木造建築の性能向上に寄与することなど目的に開催されており、今回で19回目となる。最終日の決勝トーナメントでは2体の耐力壁をジャッキで引いて、その耐力を競うとともに施工性、解体性、環境負荷、デザイン性などを評価。金物を使わない耐力壁が評価上優位になるようなルールが設けられている。

トーナメントでは実際の壁の破壊性状を確認できる。また、解体時間を競う解体性なども評価されるため、解体される過程で仕口や金物、ビスなどを工夫して使っている状況が公開される。

トーナメント戦では唯一、企業として参加したポラス暮し科学研究所の軌条が、柱を2丁1組のヌキで挟み込み、そのヌキを金輪で結合する線路をイメージした壁で勝ち進んだが、決勝戦で伝統格子戸のひとつ松葉くずしをデザインした斜材をジグザグに用い、横材と筋違を合わせた粘りと硬さを併せ持つkiba勝timbersが軌条を破って優勝、耐震部門賞、デザイン部門賞の3賞を受賞した。単体加力では最大耐力47kNを記録した。

設計は東京大学木質材料研究室博士課程の落合陽氏と修士課程の佐々木賢太氏が担当。土台に柱と縦ヌキを施工して、あとは斜材を付けるだけと、施工性の良さも追求した。網中勝東京木場製材協組理事長は「いい勉強になった。また来年も優勝を狙いたい」と意気込みを語った。

総合優勝は四国職業能力開発大学校の壁SANUKIで、金物を使わない格子壁でポイントを稼いだ。加工・施工部門賞、環境部門賞の3賞を受賞した。

審査員特別賞はポラス建築技術訓練校の「シャバドゥビ」が受賞した。

審査員講評では古久保英嗣住木センター理事長が「今回、初めて参加したが、素晴らしい大会だった」と評し、それぞれの壁についても次のようにコメントした。

ポラス暮し科学研究所が参加することで大会のレベルが上がる。壁のデザインや意図が明確に示されていた。東京理科大永野研究室「バツバツくん」は木だけでバランスよく強かった。東京理科大髙橋研究室「富士の鬼蜘蛛」は高強度繊維のテクノーラを蜘蛛の巣状に使い初参加で、遊び心を思い出させてくれた。東京都市大学大橋研究室「ヘキの極み乙女」は一番強いかと思ったが、ヤトイの材料のせいか思いのほかの結果になった。東京工業大学坂田研究室超志隊「WDC」はバランスが良く、解体もてきぱきしていた。